圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
発行人：石川　育成　　編集人：前沢　千早
連絡先：TEL 019-624-8386　FAX 019-624-8380
E-mail:info@keiryokai.gr.jp

第３０号内容
・病院電力　自力確保
　矢巾移転の岩手医大
　エネルギーセンター整備へ

岩手日報　H25.11.7

病院電力 自力確保

矢巾移転の岩手医大

エネルギーセンター整備へ

非常時でも高度医療

震災の教訓生かす

岩手医大（小川彰理事長）は、矢巾町藤沢地区に移転し2019年度開院予定の新しい付属病院が非常時でも高度医療を安定提供するため、エネルギーセンターを整備する。ガスや重油で発電するコージェネレーション（熱電併給）システムを軸とし、使用電力のほぼ100％を賄うことができる。完成は15年度内の予定。盛岡市の現病院が停電の影響で県の災害拠点病院として十分な対応ができなかった東日本大震災を教訓とした。

エネルギーセンターは新病院に隣接させる。同大によると、鉄筋2階建てで、延べ床面積約4800平方㍍の計画。病院の電力は通常時は東北電力から供給を受け、同センターは主に非常時の電力と、通常時の冷暖房熱供給を担う。15年1月着工予定で、総事業費は約55億円を想定。一部は経済産業省の補助金交付が決まっている。

同システムは計3基整備し、発電量は約3300㌔。ガスは盛岡ガス（盛岡市）と提携し、非常時も供給を受ける。併せて約1600㌔を発電できる非常用発電機1基を導入。太陽光発電も設置し、計約5千㌔を見込む。

5千㌔あれば停電しても通常に近い病院機能が維持できるという。

現病院は非常用発電機があるが、カバーできるのは最大約7割にとどまり、燃料が調達できなければ稼働が途切れる。震災直後は停電により、エックス線や磁気共鳴画像装置（MRI）が使えないなど診療や手術に多大な支障が出た。

矢巾町への移転計画で、当初は同センターを予定していなかったが、震災の教訓を踏まえ建設を決めたという。本県で次なる大災害が起きた時だけでなく、首都直下型地震や南海トラフ地震などが発生した場合にヘリ輸送など多くの患者を受け入れることも想定される中で、大きな備えとなる。

小川理事長は「いかなる災害があっても、病院機能は100％でなければならない。今後起こりうる大規模災害発生時に広域医療を担える病院をつくっていく」と力を込める。

圭陵会FAXニュース
圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。
■圭陵会ホームページアドレス　http//www.keiryokai.gr.jp